

(別記第 6 号様式)

令和 6 年 3 月 3 1 日

阿蘇地区租税教育推進協議会会長 様

学校名 阿蘇市立一の宮中学校

校長名 井芹 昌文

租税教育実践報告書

実践項目	実施月日	時間数	実践内容
○第 1 回 (事前) アンケート	6 月下旬	1	税に関する意識調査(全学年)
○税に関する学習①	7 月下旬	2 (全学年)	ビデオ視聴 阿蘇税務署職員による講話
○税に関する作品への取組	夏休み		1 年生…習字 (国語科) 2 年生…標語 (社会科) 3 年生…作文 (社会科) 全学年任意…ポスター (美術科)
○税に関する学習②	10 月下旬 ～ 11 月下旬	10 (総合) 5 (社会)	(2 年生のみ) 阿蘇市経済部まちづくり課 職員による講話 「持続可能な阿蘇市」にする ための方策を考える。 阿蘇市の職員の方にプレゼン を行う。
○第 2 回 (事後) アンケート	1 月中旬	1	学習を終えての意識調査 (全学年)
○まとめ	3 月末		報告書の作成

(注) 実践報告書は、地区租推協会長へ 3 部提出すること。

令和5年度租税教育実践成果報告書

学校名 阿蘇市立一の宮中学校校長名 井芹 昌文

1 令和5年度の実践計画

実践項目	実施時期	実践内容	時数
租税教育実践校連絡会	5月中旬	実践校委嘱	
事前アンケート	6月下旬	税や地域に関する意識調査(全学年)	
租税教室1	7月中旬	税のビデオ視聴(全学年、社会科)	各1
租税教室2	7月中旬	阿蘇税務署職員による税についての講話 (全学年、社会科)	各1
税の作品への 取り組み	7月中旬 ～ 9月上旬	各学年で取り組む作品を指定 ・3年生:作文(社会科) ・2年生:標語(社会科) ・1年生:書道(国語科) ・全学年希望者:ポスター(美術科)	
租税教室3	10月中旬	阿蘇市の財政についての実態把握 (2年生、社会科)	1
租税教育4	10月下旬	阿蘇市まちづくり課職員による講話と、 生徒への指導、助言 (2年生、総合的な学習の時間)	2
租税教室5	11月上旬 ～下旬	阿蘇市職員への提案にむけて、プレゼン作 成、発表練習、中間発表会 (2年生、総合⑥、国語科②、社会科②)	10
租税教室6	12月上旬	阿蘇市まちづくり課職員に提案 (2年生、総合的な学習の時間)	2
事後アンケート	1月中旬	学習を振り返る意識調査の実施(全学年)	1
実践のまとめ	2～3月	実践報告書の作成	

2 令和5年度の実践内容

(1) 研究主題

「持続可能な阿蘇市のこれから」につなげる租税教育
～地域の一員としてできることを企画、提案しようとするシビックプライドの醸成～

(2) 主題設定の理由

阿蘇市では、令和4年度より「ICTを活用した小中学生プレゼンコンテスト in SDGs」が実施されており、本校では、1・2年生が総合的な学習の時間を充てて取り組んでいる。令和5年度に租税教育実践校として指定を受けるにあたり、租税教育とSDGs（プレゼンコンテスト）を関連付けて取り組むことができないかと考えた。

租税教育実践の目的に、「社会公共事業に対する理解を深め、租税についての正しい知識を養うとともに、遵法の精神をつちかうことにより、将来のより良い県民を育成する」とあり、これを、「税の学習を通して身の回りの地域社会に目を向け、地域社会に貢献できる人材の育成すること」ととらえ、上記の主題を設定した。

(3) 研究の目標

- ①将来の納税者として、税についての正しい知識を得るとともに、身の回りの生活と租税のかかわりについて知る。
- ②阿蘇市のよさや財政状況等の課題について知り、地域社会の一員としてSDGsの視点から地域のためにできることを企画し、提案しようとするシビックプライドを醸成する。

(4) 研究の実際

「令和5年度の実践計画」に沿って、全学年を対象に、税についての基礎知識を学ぶ学習を実施し、研究主題に迫る学習は、2年生を対象に実施した。各学習の詳細は、以下通りである。

① 租税教室1

租税教室2の事前学習として、税の基本的な内容を押さえるために、ビデオ「ご案内します アナザーワールドへ（国税庁作成）」と「はじめての税金教室～税金ってなあに？（武蔵府中法人会作成）」を視聴した。

〈ビデオ視聴後の生徒の感想〉

- ・税金がもしなかったら自分たちの生活や生活する場所がなくなっていくことを知った。自分たちが安全に過ごすためにも税金は大事だと思った。
- ・普段当たり前だと思っていたことが、税金によって成り立っていることを知った。
- ・最初は税金なんてなくてもいいだろうと思っていたけど税金がなかったら暮らしが大変になると言うことがわかった。
- ・買うものや給料が少しになるからと言って税金が役に立たないのではなく国民全体が税金に助けられていると感じた。

② 租税教室 2

阿蘇税務署の職員の方に講師として授業を実施していただいた。生徒の税に関する実態や疑問などについて、事前アンケートの結果をお渡しし、それに基づいて講話内容を次のとおりに組み立てていただいた。（写真①・②）

1 年生の内容

- 1 身近な税について
- 2 身近な税の使いみち
- 3 税は「会費」のようなもの
- 5 税の使いみちはどうやって決まるのか？
- 6 税についての決まり
- 7 もしも税がなかったら

2・3 年生の内容

- 1 税金クイズ
- 2 税の種類
- 3 税の使われ方
- 4 財政の仕組み
- 5 国の予算
- 6 これからの社会と税

（写真①：租税教育 2 の様子）



（写真②：租税教育 2 の様子）



〈授業を終えての生徒の感想〉

- ・「税金がなかったら」ということを考えると、とても不便だなと思った。また、日本の税金で、発展途上国へお金を貸したり、ダムや道路、病院をつくったり、病院で使う薬や注射器などを送ったりしているのを聞いて、とても素敵だなと思った。
- ・税がどんなふうに社会を回っているかを知ってよかった。税の使いみちにはたくさんの人がかかわっていたので、すごいなと思った。
- ・税金が自分たちの知らないところで、いろんな形で使われていることを改めて知り、自分たちが払う税金はとても重要なものだなと思った。
- ・税を払うと高いから、いらないと思っていたけど、今回の話を聞いて、税金がみんなのためになることを知った。もっと税金のことを知りたい。

租税教室 1・2 を通して、私たちの生活を支えている存在としての税の役割や重要性をしっかりと理解し、自分自身や家族の幸せのためにも納税することが大切であるとの思いを持った生徒が多かった。

③租税教室3～6

2年生を対象に、研究主題にせまる「『持続可能な阿蘇市のこれから』につなげる取り組みを考えプレゼンしよう』というテーマで学習に取り組んだ。

学習計画

①阿蘇市の課題の把握、学習テーマの設定（租税教室3）

- ・阿蘇市の基礎データ調査から阿蘇市の現状や特徴（阿蘇市の魅力や強みなど）と課題等を考える。
- ・阿蘇市の財政や一般的な『ふるさと納税』について学び、もっと魅力ある返礼品がないかを考える。

②阿蘇市職員による講話と指導助言（租税教室4）

- ・阿蘇市の職員の方から、阿蘇市についての講話を聞く。
- ・事前に考えた返礼品についての助言をもらう。

③プレゼン作成・発表（租税教室5・6）

- ・阿蘇市のSDGsプレゼンコンテスト出展に向け、『ふるさと納税の返礼品』についてのプレゼンを作成する。
- ・中間発表会を行い、生徒同士での相互評価を行い、阿蘇市職員の方からも評価・助言をもらう。
- ・中間発表会をうけて、自分の案を見直し、プレゼン資料、発表原稿を完成させる。
- ・校内（学年）発表会をおこなう。

ア)租税教室3：阿蘇市の課題の把握、学習テーマの設定

阿蘇市の財政の状況から、税収が少ない現状を読み取らせるために、近隣他町村（大津町、菊陽町、高森町）と比較し、理由を考えさせた。（資料①）

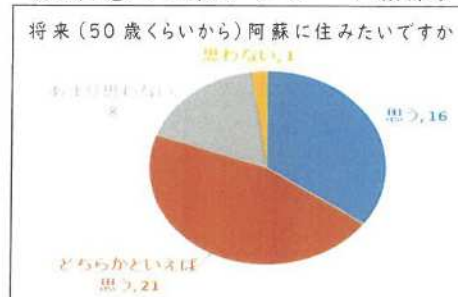
その後、阿蘇市の人口の推移、年齢別人口構成、依存財源が約70%などの実態から今後の阿蘇市の財政状況について、予想させた。

生徒を対象に実施したアンケート結果（資料②）を提示し、約80%の生徒が「50歳ぐらいから阿蘇に住みたい」と考えている中、このままで阿蘇市の財政状況が「持続可能か」について考えさせた。その中で、高森町の財政の状況（資料③）を示し、その理由を考える中で、「ふるさと納税」について触れ、阿蘇市でも「ふるさと納税」を活用し、「持続可能な阿蘇市」にす

（資料①：阿蘇市の財政について）

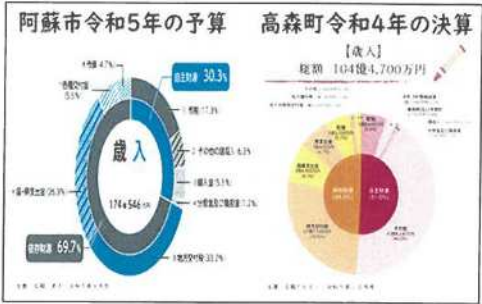
県内市町村の収入を見てみよう！				
	阿蘇市	菊陽町	大津町	高森町
人口(万人)	2.5	4.3	3.5	0.6
収入(億円)	174	182	168	104
税収(億円)	30 (17%)	79 (40%)	55 (31%)	6 (7%)
市債(億円) (借金)	8 (5%)	16 (9%)	17 (9%)	5 (5%)

（資料②：生徒アンケート結果）



るために自主財源を増やすことを目標に、「ふるさと納税の返礼品を考えて、阿蘇市の職員の方に提案する」という学習テーマと、活動の流れを確認し、ふるさと納税の返礼品を各自で考えた。

(資料③：阿蘇市と高森町の比較)



イ) 租税教室 4：阿蘇市職員による講話と指導助言

阿蘇市でふるさと納税を担当している経済部まちづくり課の職員の方を講師に招き、阿蘇市の現状やふるさと納税について講話を実施した。(写真③)

講話終了後は、前時までにそれぞれで考えたふるさと納税の返礼品について、より実現可能にするためのアイデアや視点などを助言していただいた。(写真④)

(写真③：租税教室 4 の様子)



(写真④：租税教室 4 の様子)



ウ) 租税教室 5：プレゼン中間発表会

租税教室 4 をもとに、再度プレゼン内容を練り直し、よりよい提案をするための中間発表会を実施した。小グループ内で発表会をし、生徒が相互評価を行った。まちづくり課職員の方にも参加いただき、再度アドバイスや評価をいただいた。(写真⑤)

また、この授業は、租税教育実践発表として、阿蘇税務署長様をはじめ、阿蘇郡市の租推協の皆様にも公開した。(資料④・⑤)

(資料④ 授業にあたっての生徒の実態)

(写真⑤：租税教室 5 の様子)



①阿蘇市は好きですか。	好き… 70%	嫌い… 30%
②阿蘇市の良いところ、自慢できるところを教えてください。(複数回答、上位)		
・ 自然が豊か… 65%		
・ 水、湧き水がきれい… 55%		
・ 人が優しい、つながりがある… 23%		
・ 山が有名… 14%		
・ 生活環境がよい(静か、ゆったりしているなど)… 14%		

③阿蘇市の課題（問題点）を教えてください。（複数回答、上位）				
・ ない、思いつかない… 36% ・ 大きな店がない… 19% ・ 少子高齢化… 14% ・ 農業の後継者問題… 14% ・ 道が悪い、暗い… 12% ・ ごみのポイ捨て… 10%				
④将来（20代～）阿蘇市に住みたいと思いますか	思う	どちらかといえば	あまり	思わない
	19%	34%	43%	4%
（住みたい） ・ 阿蘇が好き ・ 働きたい場所がある ・ 家を継ぎたい ・ お金がかからない （どちらかといえば） ・ 落ち着く ・ 自然がいっぱいある ・ できるだけ阿蘇にいたい （あまり） ・ 不便 ・ 外国に行きたい ・ やりたい仕事阿蘇ではできない （住みたくない） ・ 通勤、通学に不便 ・ 阿蘇市外に就職する				
⑤将来（50歳くらいから）阿蘇市に住みたいと思いますか	思う	どちらかといえば	あまり	思わない
	36%	45%	17%	2%
（住みたい） ・ のんびり暮らしたい ・ ふるさとだから ・ ずっと住んでいるはず ・ 自然が好き （どちらかといえば） ・ 親が心配 ・ 家がある ・ 水がおいしい ・ 老後が安心 （あまり） ・ 働く場がない ・ 老後の生活を考えると不便 （住みたくない） ・ 店が少ないのは、年を取ったらつらそう				
⑥将来、阿蘇市はどんな市になってほしいと思いますか。（複数回答、上位）				
・ 自然の豊かさが残る… 19% ・ 店や交通に便利な市… 19% ・ 今のままがいい… 17%				
⑦阿蘇市の為に、あなたができること（今でも将来でも）にはどんなことがありますか。				
・ 阿蘇の魅力をたくさんの人に伝える… 12% ・ 自然を大切に（守る）… 12% ・ イベントなどに参加する… 12% ・ 阿蘇に住む、阿蘇で働く… 12% ・ 阿蘇で買い物を… 4% ・ きちんと税金を納める… 4% ・ ふるさと納税、募金… 4% ・ SDGsに取り組む… 2% ・ わからない… 34%				
⑧地域のために活動、行動することがありますか。	ある	時々	あまり	ない
	13%	43%	40%	4%

(資料⑤ 授業の展開案)

(1) 本時の目標

学年プレゼンコンテストでのより完成度が高く分かりやすい提案にするために、中間発表会での気づきをお互いに助言しあったり、他者に意見を求めたりすることができる。

(2) 本時の展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意点・評価 (学習活動の目的・意図、内容、方法等)
導入	5分 ○	1 学習過程を確認する。 単元のゴールを確認し、本時の学習課題を確認する。 【学習課題】 より完成度が高く、伝わりやすいプレゼンを仕上げるためには、どのように工夫改善したらよいだろうか。	○単元のゴールを確かめ、単元計画から本時のめあてを設定する。 (「問い」を生み出す手立て等) ○実効性のある提案、相手を納得させるための提案、わかりやすい提案のための視点について、考えさせる。 (課題解決に粘り強く取り組もうとするための手立て等)
		2 流れを確認する。 特にアドバイスが欲しいポイントをあらかじめ伝え合う。	○できるだけ多くのポイントの評価させたいが各自で特に見てほしいポイントを1～2を選ばせ、そこだけは必ず評価、アドバイスをするように焦点化する。
展開	40分 ① ② ③	3 班ごとに中間発表会を行う。 ①一人3分で発表。 発表を聞きながら評価し、アドバイスを考える。 ②発表後、3分間で評価、アドバイスを伝え合う。 (①・②を繰り返す)	(対話的な学びへの手立て) ○考えやすく、より具体的なアドバイスや提案がしやすくなるように、テーマ別に分かれた後、さらに小グループに分け、グループ内で中間発表会を行う。 (個に応じた支援) ○小グループにし、焦点を絞ることで、意見発表が苦手な生徒も発表しやすい雰囲気をつくる。 (深い学びへの手立て) ○同じグループの一人が、プレゼンの様子を動画で記録し、本人に渡し、自分の発表を振り返る材料にする。 (言語活動の設定及び設定の意図) ○評価を試合、別の視点からの意見を参考して、よりよいプレゼンを作り上げる。
		4 自分のプレゼンを見直す。 ○発表動画やアドバイスを受けて、プレゼンシートや発表原稿を見直す。 ○市役所の職員の方にアドバイスを求める 【期待される学びの姿】 自他の発表を受けて、気づいたり指摘されたりした点を踏まえて、学年プレゼンコンテストに向けて、よりよい提案資料や原稿、発表の仕方などを改良しようとする。	【具体的評価規準】主体的に学習に取り組む態度 より分かりやすい提案ができるよう、他者の意見を参考に、改善しようとして
		5 活動のまとめを行い、次時につなげる。	○生徒の気づきをもとに、まとめとして、次時以降のプレゼン修正の際の視点を考える。
終末	5分 ④	【まとめ】 より完成度が高く、伝わりやすいプレゼンを仕上げるためには、○○な話し方、○○な構成の仕方、○○な資料に改善していく。 6 感想を書く	

エ) 租税教室 6：プレゼン発表会

学年で発表会を行い、まちづくり課の2名の職員に対して、返礼品の案を提案した。(写真⑥・⑦、資料④～⑧)

(写真⑥・⑦：租税教室6の様子)



(資料④ 生徒が提案した返礼品)

発表題(テーマ)	発表題(テーマ)
返礼品の知名度アップを ガバメントクラウドファンディング ～阿蘇市に新たなふるさと納税を～ 伝えよう!阿蘇の草原とあか牛 ふるさと納税で世界貢献をしよう 草泊まり×野焼き体験で阿蘇の自然を守ろう 阿蘇のお野菜でふるさと納税 阿蘇市のお金を増やすために(温泉を返礼品に)	阿蘇の「食品」を使った返礼品 阿蘇を盛り上げろ ～リモナイトを返礼品にふるさと納税大作戦～ 返礼品で地域活性化 世界に1つだけの思い出をin SDGs 草原の維持 ふるさと納税で阿蘇市発展へ 綺麗で美味しい阿蘇の水を飲んでみよう

(資料⑤～⑧ 生徒の提案)



どの生徒の提案も、阿蘇市の現状や強み、魅力を考慮したうえで、課題である草原の維持や職場の確保、フードロスなどをテーマに返礼品を考えて発表していた。評価者として参加いただいた阿蘇市の職員の方からは、「実際に返礼品として考えていけそうなものがいくつかあった」との評価をいただいた。

また、学年発表会にて評価の高かった「草泊まり×野焼き体験で阿蘇の自然を守ろう」「阿蘇を盛り上げろ～リモナイトを返礼品にふるさと納税大作戦～」

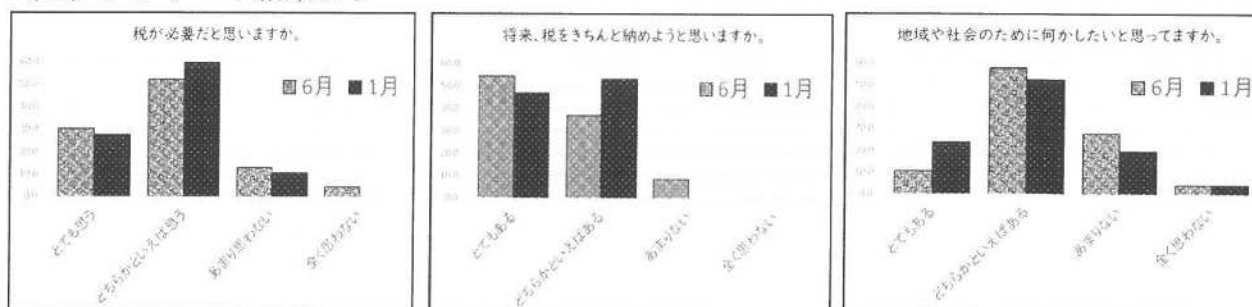
「ガバメントクラウドファンディング～阿蘇に新たなふるさと納税を～」の3作品を阿蘇市の「ICTを活用した小中学生プレゼンコンテスト in SDGs」に出展した。

〈活動を終えての生徒の感想〉

- ・税のことを知っておくと自分たちもそれに貢献できることを考えやすくなるし、将来納める立場になっても、困ることが減ると思った。
- ・将来、税金がその地域のためになると思うと税を納めてみたいと思った。
- ・自分たちでふるさと納税の返礼品を考え、プレゼンを作ることによって、よりふるさとについて知り、考えることができた。
- ・ふるさと納税の商品をつくることをして、相手がどんなものをもらって嬉しいかなどを考えて、アレンジを加えたりして、みんなで話しながらつくるのが楽しかった。
- ・ふるさと納税の返礼品という形で、阿蘇市のためにできることを考えるのが楽しかった。
- ・阿蘇市の人口や少子高齢化のことは知っていたけど、それが市のお金と関係していることは知らなかった。どうして課題なのかが分かった。
- ・阿蘇の良いところをもっと多くの人に知ってもらって、阿蘇を好きになってもらいたいと思うようになった。
- ・将来、阿蘇に住んでいなかったら、ふるさと納税ができるので、阿蘇のためにやってみたい。

3 令和5年度の実践成果と今後の課題

(1) アンケート結果より



- 学習を通して、税の大切さや納税への自覚を高めることができた。
- 地域の一員としてできることを考えるきっかけにすることができた。特に、市職員へ提案する場を設定したことで、より意欲的・主体的に学習に取り組むことができていた。
- 社会科だけでなく、学年、他教科など職員全体で取り組むことができた。
- 各学年で取り組んだ税の作品で以下のとおり入賞した。

(作 文) 阿蘇地区納税貯蓄組合連合会会長賞 (2作品)

阿蘇税務署長賞 (1点)

(標 語) 阿蘇間税会会長賞 (1点) 「令和の和 税で広がる 笑顔の輪」

- (ポスター) 阿蘇税務署長賞 (1点)
 (習 字) 阿蘇地区税務推進協議会会長賞 (1点)



▲家庭への発信十分にできず、学校だけの取組で終わってしまった。アンケートへの協力や、授業公開など、家庭も巻き込んで学校総体で取り組むことができれば、さらに学びが深められたと思う。

(2) 「ICTを活用した小中学生プレゼンコンテスト in SDGs」の結果より
 2年生の部

最優秀賞

「草泊まり×野焼き体験で阿蘇の自然を守ろう」

奨励賞

「阿蘇を盛り上げろ

～リモナイトを返礼品にふるさと納税大作戦～」

「ガバメントクラウドファンディング～阿蘇に新たなふるさと納税を～」



特に、最優秀賞を受賞した作品で提案した返礼品のアイデアについては、実際に返礼品として実用化にされた。さらに、他のアイデアについても、商品化できるものはないかを検討していきたいとの回答をいただいている。

このことにより、中学生でも地域の行政にかかわり、自分たちのアイデアを取り入れてもらえることを体験でき、地域の一員として、地域に貢献できることを知るよい機会となった。

(3) 生徒会専門委員会予算請求の実施

阿蘇市教育委員会よりいただいている8万円の予算を予算は、阿蘇市の税金からきていることを告げ、そのうち3,000円ずつを、本校生徒会の役員と8つの専門委員会で平等に配分した。残りの約5万円は、それぞれの委員会で活動に必要な物品を検討し、正副委員長が代表して本校職員に対してプレゼンを実施して予算獲得を目指した。職員との質疑応答を経て、必要と認められたものに予算を配分し、物品を購入した。



集められた税が阿蘇市の予算(税)から自分たちの手もとに還元されるかを実際に体験したことで、税の大切さはもちろん、獲得した物品を活用して、よりよい委員会活動につなげていきたいという、自治力の意欲の高揚にもつながった。